

【追加指定 法隆寺金堂 附・古材の概要】

1. 名称・員数 ほうりゅうじこんどう つけたり こざい 法隆寺金堂 附・古材 3, 284点
2. 所在地 奈良県生駒郡斑鳩町
3. 所有者 宗教法人法隆寺
4. 説明

法隆寺は奈良県斑鳩町に位置する古刹で、金堂は飛鳥時代の建立と考えられています。雲形肘木、胴張りの柱、まんじくずし 卍崩しの高欄など意匠や構造の形式が奈良時代より一段古く、いわゆる飛鳥様式を示す最古の木造寺院建築として、国宝（建造物）に指定されています。創建以来、度々修理が加えられ、昭和24年（1949）には初重内部を焼損しましたが、同29年の修理で各部の復原が行われました。修理で再使用できなかった部材が境内に保管されています。これら建立当初の部材を含む3, 284点の古材は、古代仏堂の建立時及び建立後の経過を伝える建築部材群として、建物と一体となって価値をなす重要なもので、金堂の附として追加指定し、保存が図られます。



法隆寺金堂正側面全景、西南より

提供：奈良県



古材（大斗）



古材（雲形肘木）

提供：奈良文化財研究所